

JAPANブランドで沖縄からアジアへ! 「第2回 沖縄大交易会」併催事業



オープニングセレモニー

今回、JAPANブランドを求める海外バイヤーに対し、「3県フルーツセット」や「日本のお茶セット」「プレミアムジュースセット（青森県産りんご、岩手県産ぶどう、愛媛県産みかん、石垣島産パイン）」といった複数産地の特産品を組み合わせてパッケージングしたセット商品を提案しました。

（株）沖縄県物産公社と沖縄総合事務局経済産業部は、全国の優れた地域ブランド商品（地域団体商標登録商品など）やふるさと名物約80品目を集め、展示・商談を行う「日本のおいしいもの展」を沖縄大交易会会場において開催しました。2日間で海外・国内から延べ165社のバイヤーが来場し、商談を行いました。

日本のおいしいもの展

かつての沖縄が琉球王国として、その地理的優位性を活かし、アジアにおける海洋国家として繁栄していたように、今日でも、急速に発展するアジアマーケットと日本を繋ぐ「アジアゲートウェイ」としての沖縄国際物流ハブの機能強化が、官民一体となって推進されています。

この取組の一環として、日本最大規模の国際食品商談会「第2回沖縄大交易会」が平成27年11月26日・27日の2日間、沖縄コンベンションセンターにおいて開催されました。本交易会では、日本全国から200社（県外企業142社、県内企業58社）のサプライヤー、国内外のバイヤー168社（海外114社、国内54社）が参加し、個別商談会では約1900件の商談会が行われました。

沖縄総合事務局では、併催事業として以下のイベントを同時開催しました。



200 ブースの商談会会場



「日本のおいしいもの展」島尻内閣府沖縄担当大臣、翁長沖縄県知事が視察



全国各地の名産物のセット商品

セット商品を販売することで、特産品の付加価値を高め、県産品の知名度向上につなげる狙いがあります。海外バイヤーからは、「沖縄でのギフト化が可能であれば取引の選択肢が広がる」「パッケージすることで商品の魅力が高まる」など、アジアマーケットでのセット



「日本のおいしいもの展」商品 MAP

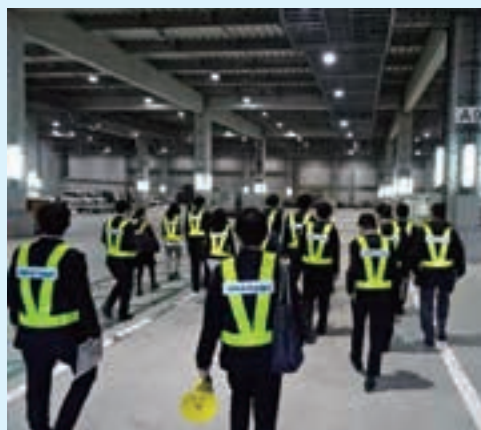
商品の可能性の高さがうかがえ、購入層別にもっと工夫してほしい、「健康志向のニーズに対応したセット商品がほしい」といった意見もありました。

今回の「日本のおいしいもの展」を通して得られた海外バイヤーの意見を踏まえつつ、今回の取組を通じてセット商品の定番化や新たな市場開拓に繋がることが期待されます。

第3回アジアビジネス戦略連携会議

当局では、アジアビジネスに取り組む企業をサポートする産学官ネットワーク「沖縄国際ハブクラスター」を構築しており、地域連携によるアジア市場展開の方策の検討を目的とした「第3回アジアビジネス戦略連携会議」を開催しました。

本会議には、中小企業庁や各経済産業局、自治体などが参加し、それぞれが取り組む海外展開についての発表や意見交換を行いました。また、「沖縄大交易会」や「日本のおいしいもの展」の視察、那覇空港貨物ターミナルビル、大型クルーズ旅客船バースの見学を行い、沖縄の国際物流ハブ拠点としての可能性や新たな輸送モデルについて理解を深めました。



ANA 貨物ターミナル見学



第3回アジアビジネス戦略連携会議

結びに

当局は、沖縄の強みである「沖縄力」をいかし、交易・交流拠点としての機能強化と更なる発展を遂げるべく、今後も積極的に取り組んで参ります。